

地小出版  
方小版

情報誌

# アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 1975年生まれのNY発 「ニューヨーク便利帳® vol.20」

文・発行人 吉田 仁

お陰様で創刊から36年の月日が経ち、本年で節目の20版を数える。だが、「ニューヨーク便利帳」の創刊者は残念ながら私では無い。

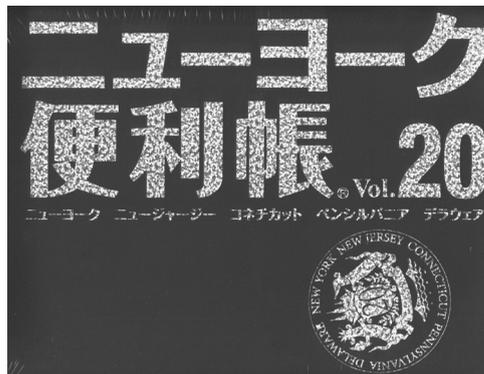
### バブル時代、駐在員家族にとってのバイブルが「ニューヨーク便利帳」

1975年の創刊当時、マンハッタンにある日系企業と言えば、大手商社か銀行、サービス業では五番街に高島屋デパートがあったくらい、日本食レストランも数十軒しか無かったらしい。それでも駐在員家族が年々増えていく中、必然的に日本語媒体が出現する。

私が聞いている話では、同年ロサンゼルスでUS Japan Business News、ニューヨークでOCS Newsという週刊紙が相次いで創刊、80年代に入るとエコノミックワールド、イエローページ JAPAN、読売アメリカ、海外駐在、Come to America、その他、雨後の筍の如く、媒体の乱立が始まる。

80年代のアメリカの景気は決して良くはなかったが、当時の日本はバブル経済に踊り、アメリカとの貿易摩擦で問題は山積しながらも90年代前半までの日本企業のアメリカ進出は凄まじかった。その時代の駐在員家族にとってのバイブルが「ニューヨーク便利帳」であったことは言うまでもない。

渡米前の不安、心配事を挙げたらキリが無い。ニューヨークの何処に住むの？ 日本食が買えるお店はあるのか？ 子供の学校は何処にする？ 銀行口座はどうやって開く？ ソーシャルセキュリティナンバーとは？ 自



紀伊國屋書店ニューヨーク店での店頭展開

動車免許の取り方？ ビザのこと？ 英語学校は何処が良い？ 日本語の通じる医者はあるのか？ アメリカの薬は飲んで大丈夫なのか？ 地下鉄は危なく無い？ 今のようにインターネットなど無い時代。誰もが知りたい、聞きたい、ニューヨークのあらゆる情報を網羅し、不定期ながら3年に1度のペースで発刊し続けた「ニューヨーク便利帳」。現発行人の私が1989年にニューヨークを訪れた時、この便利帳を初めて目にした。忘れもしない当時

ロックフェラーセンターにあった紀伊國屋書店の店頭にもトグロ巻に置かれていた。後にも先にも1冊の本をあそくまで特別扱いした商品など見たことが無い。後日、大変お世話になった市橋支配人によるとこの1店舗だけで当時1万3千冊を売っていたらしい。凄い

本である。6版目の便利帳だった。

私自身、建築家に成りたくて1988年に渡米。いろいろなアルバイトをしながら1年間は定住せず、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シカゴ、デトロイト、テネシー、フィラデルフィア、そしてニューヨークに辿り着くまで今でいうホームレス状態の生活をしていた。観光ビザで潜り込み、英語もろくに喋れず、建築家としての経験も全く無い、そんな私に仕事などある筈も無く、夢叶わなければ直ぐに帰国する、、、ぐらいの今思えば軽い気持ちで渡米したもの、やはり悔しかった。もう一度、ニューヨークでやり直そう。そう思って職探しに情報誌でも買おうかと、紀伊國屋書店に立寄ったのだ。

そこで、その凄い「ニューヨーク便利帳」と出会う。店頭価格25ドル。当時の為替が1ドル=約160円だから結構高い。職探しのために泣け無しのお金で購入した。先にも書いたが、80年代後半のニューヨークの景気、治安は決して良くは無かった。自動車、家電メーカーとの貿易摩擦、三菱地所によるロックフェラービルを買収、エンパイア州然り、マンハッタンランドマークビルを日本企業が買い漁っていた時代。どちらかと言えば日本人は煙たが

られていた。デマも横行していた。地下鉄で日本語を話すと銃で撃たれる、そんな噂まで飛び交っていたのだ。

当時、ベースメントにあった借家に「ニューヨーク便利帳」を大事に持ち帰り、早速、職探し。目次に「日本語が通じる建築事務所」という見出しがあった。片っ端から連絡したが直ぐに仕事は見つからない。電話が駄目なら直接出向いて面接をしてもらおうと、便利帳の企業リストをコピーして順番に企業訪問を繰り返した。何軒目かに SOHO にあった設計事務所の社長に紹介を受け、「トニークラフト」という会社に職が決まった。便利帳のお陰である。

さらに良いことが続く。その3ヶ月後に応募総数 300 万人中、日本人枠 60 人、なんと 5 万に 1 人の確率で第 1 回目のアメリカ永住権の抽選に当選してしまった。渡米 1 年足らずで永住権を手にしたことで建築家に成りたい夢はさらに広がったが、縁とは不思議なものである。私の前職となる出版社の社長にお世話になることになり、1990 年 6 月にこの世界に飛び込んだ。それも、打倒! 「ニューヨーク便利帳」を目指す日系出版社なのだ。5 年間営業マ

ンとして頑張ったが、便利帳にはどうしても勝てない。29 歳の時に独立を決意する。「ニューヨーク便利帳」の創刊者が版權を譲渡しても良いとの話があり、5 万ドルで買取。1995 年 3 月、Y's Publishing Co Inc を設立、起業した。

そして私自身の創刊号は、「ニューヨーク便利帳 vol.8」同年 11 月に完成する。表紙を目次に見立て、情報の探し易さを追求した。紀伊國屋書店 NY の市橋支配人に直接本誌を持っていったら、翌日には 6 年前に見たあのトグロ巻、5 段重ねで店頭飾られていた。感謝で涙が止まらなかった。

### 昨年「ニューヨーク便利帳 / 電子版」もスタート。"紙の復権"が我社のスローガン!

あれから 17 年、「ニューヨーク便利帳」は版を重ねるごとにボリュームアップ、今尚、健在である。今号は 20 号記念号とした。トータル 738 頁、全カラー印刷、重さ約 1.5kg、広告スポンサー 346 社。売上げ、コストとも過去最高である。時代は変われど変わらないものもあるのだ。日本人の憧れの街、ニューヨー

クが存在する限り、便利帳は必ず生き残る。そして昨年「ニューヨーク便利帳 / 電子版」もスタートした。

私は「ニューヨーク便利帳」の創刊者では無い。でも私のアメリカ生活の原点は間違いなく「ニューヨーク便利帳」である。だから大事に育てたい。まだまだ成長させたいのだ。嬉しそうに購入してくれる読者を書店の片隅で見る度に感動し、心から感謝する。

"紙の復権"が我社のスローガンだ。ニッチマーケットで生き抜くための秘策は私なりに持っているつもりだ。社員一同、30 版目を目指し日々工夫、精進している。70 年代生まれのアメリカ発、日本語媒体の生き残りは「ニューヨーク便利帳」だけである。

それが私自身の誇りなのだ。

最後に「ニューヨーク便利帳」の日本国内における販売、そして本誌 20 版を記念し「アクセス」にこうして掲載くださった地方・小出版流通センターの代表、川上社長に心より御礼申し上げます。

(よしだ ひとし / Y's Publishing 代表)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『暗闇に耐える思想 一松下竜一講演録』 ●松下竜一著



大分県中津市で宿病を抱えて暮らす元豆腐屋の著者が、故郷の自然と環境を守ろうと九州随一の大企業九州電力に立ち向かい、豊前火力発電所建設反対運動に身を投じたのは 1972 年のこと。真冬の一夜、家中の電気を消し、幼な子らと「マッチ売りの少女」を語りながら過ごす。その夜の思いを「暗闇の思想」として、「今の明るさの文化が虚妄ではないのかどうか、冷えびえとするまで

思惟してみようではないか」と記した。一人の生活者として弱い人間であることを武器に闘い、まさに血を吐くようにして発言、行動し、斃れた。その 7 本の殆ど未刊の講演録である。今ほど暗闇での思惟がなされなければならない時はない。  
◆ 1470 円・A 5 判・158 頁・花乱社・福岡・2012/1 刊・ISBN978-4-905327-13-4

### 『小出裕章 原発と憲法 9 条』 ●小出裕章著



原子力の平和利用を信じて原子核工学科に進んだ著者は、学ぶうちに危険な実態を知り、原発反対運動に加わる。大学院を終え国立大の原子炉実験所助手(現助教)になるが、40 年間その身分のままである。この間、一貫して原発に反対し、伊方原発訴訟の住民側証人にも立った。福島原発における東電、国、原子力村研究者、マスコミの責任は計り知れないが、旗振りこそしなかったと

はいえ、原子力の場にいる者として責任を痛感する。原子力の行き着く先は核兵器であり、憲法第 9 条に直接関わっている。国民一人ひとりが自分の責任としてその重さを考えるようになれば、原子力など容易に廃絶できると呼びかける。  
◆ 1470 円・四六判・207 頁・遊絲社・奈良・2012/1 刊・ISBN978-4-946550-31-7

# 売行良好書

期間：2012年2月16日～3月15日

## 【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (2)『女川 佐々木写真館』2100円・一葉社 (3)『中国新声代』2415円・中国書店 (4)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (5)『言葉のフーガ 自由に、精緻に』2520円・四明書院 (6)『私たちの選んだ子どもの本 改訂新版』1050円・東京子ども図書館 (7)『めざせ上級！太鼓とん どこどん』1200円・浅野太鼓文化研究所 (8)『小出裕章 原発と憲法9条』1470円・遊絲社 (9)『細部にやどる夢』1575円・石風社 (10)『釜ヶ崎のススメ』2520円・洛北出版 (11)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社 (12)『なせば成る！』840円・山形大学出版会 (13)『3.11を超えて』1260円・無明舎出版



## 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 3月号』420円・東京かわら版 (2)『円周率100万桁表』330円・暗黒通信団 (3)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (4)『越後村上氏二代』2100円・歴研 (5)『温泉番長ほっかいどう book 1』780円・海豹舎 (6)『自然対数の底100万桁表』284円・暗黒通信団 (7)『素数表150000』375円・暗黒通信団 (8)『関東争奪戦史 松山城合戦』1575円・まつやま書房 (9)『北の無人駅から』2625円・北海道新聞社 (10)『近世栃木の城と陣屋 改訂増補』1995円・随想舎

## 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『女川 佐々木写真館』2100円・一葉社 (2)『はじめての糀(こうじ)料理』1260円・西日本新聞社 (3)『丹波の生活衣』2625円・北星社 (4)『途上国の人々との話し方』3675円・みずのわ出版 (5)『中国新声代』2415円・中国書店 (6)『としょかんねずみ』1680円・瑞雲舎 (7)『ヒトのからだ』2310円・うぶすな書院 (8)『暗闇に耐える思想』1470円・花乱社 (9)『カルトからの脱会と回復のための手引き』1995円・遠見書房 (10)『トウモロコシの心』1800円・高知新聞社

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
 本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

## トピックス — ★★

▼すでに周知のこととなりましたが、本年3月31日をもってジュンク堂書店新宿店が閉店することとなりました。小誌のこのページにある売上ランキングもジュンク堂新宿店は今月号が最後となります。この新宿店に常設されていた「ふるさとの棚」ですが、今後はジュンク堂池袋店9Fで引き継いでいただくことになりました。次号からの売上ランキングはこのジュンク堂池袋店9Fに移設された「ふるさとの棚」での売行きデータをもとにしたものになる予定です。池袋店ですら商品がスタッフの方々の手により棚に収められ、棚近くには以下のような、池袋店中村店長(元新宿店店長)のコメントが貼られています。「『ふるさとの棚』について— 神田神保町の書肆アクセスが2007年11月17日に閉店したことがきっかけで、『ふるさとの棚』は2008年2月4日に、ジュンク堂新宿店6階にオープンしました。…『ふるさとの棚』はたくさんの方々が集まっては、また散ってゆく『東京』という場所に、たまには自分のふるさを懐かしむ場所があって欲しい、という本屋の思いを込めています。どうぞ、これからも末永くよろしくお願いいたします。」

▼3月16日未明、吉本隆明さんが87歳で亡くなりました。この場を借りて心より哀悼の意を表します。

※本誌3月号の〈直書店口座新刊案内〉『モダンジュース8』の内容紹介で浅生ハルミンさんのお名前を「浅野ハルミン」と誤って表記しました。お詫びして訂正いたします。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
 FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

